

令和7年度 第1回忠岡町障害者施策推進協議会 要録

日 時 令和8年1月16日(金) 午後1時00分～2時45分

会 場 忠岡町役場3階 研修室1・2

出席者 吉池委員(会長)、八木委員(副会長)、石原委員、森田委員、花野委員、
吉田委員、佐竹委員、仲喜委員、森委員(代理:小西様)、中井委員、
小見山委員、芥川委員、松浪委員、二重委員

町側出席者 是枝町長

武藤福祉課長、福祉課堀井、福祉課富永、こども課米田、
泉健康づくり課長

委託業者 株式会社ぎょうせい今中、安井(愛)

議題

1. 委嘱状の交付
2. 会長の選出
3. 忠岡町障がい福祉計画(第7期) 令和6年度実績報告
4. 忠岡町障がい児福祉計画(第3期) 令和6年度実績報告
5. 忠岡町第5次障がい者計画・第8期障がい福祉計画(第4期障がい児福祉計画含む)
策定にかかるアンケート調査の内容の確認
6. 各種計画策定のスケジュール説明
7. その他

配布資料

資料1 第7期障がい福祉計画 P D C Aサイクル管理用シート(忠岡町)

資料2 第3期障がい児福祉計画 P D C Aサイクル管理用シート(忠岡町)

資料3 第5次障がい者計画・第8期障がい福祉計画アンケート案

資料4 第4期障がい児福祉計画アンケート案

資料5 各種計画策定のスケジュール表

資料その他 「障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る基本指針の見直し」

(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課・こども家庭庁支援局障害児支援課)

武藤福祉課長の進行のもと、委嘱状の交付と会長の選出を行った。

(議題1) 委嘱状の交付

是枝町長より、委嘱状の交付を行った。

(議題2) 会長の選出

前会長からの指名により、吉池委員が会長に選出された。

(吉池会長) 改めまして、吉池です。前任の北野先生と私は学生時代に実習でご指導いただいた師弟関係にあります。あれだけエネルギーのある方が、今も変わらずエネルギーをお持ちで、本当に、こういう人になりたいなと思っているところです。私自身は教わった内容はほぼ忘れたのですが、ただ一つ心に残っている言葉が、「子どもは親を踏んづけて生きていったらいいんだよ」という言葉です。母子家庭で、母もおばも背負っていかないといけないなと思っていた時に、先生のそういう言葉がすごく胸に刺さって、今も力になっています。そういう人徳のある先生の後にはバトンを受けるのは大変重いですけれども、皆さんに教えていただきながらと思っております。前職は精神科病院のソーシャルワーカーを5年間しておりました。今、薫英学園で24年ほど仕事をしております。私自身は虐待防止と差別解消というところにごく意識を持っております。吹田市でも自立支援協議会で会長をさせていただいております。人権が大事だと考えているのですが、マイナス1を0に、0を1にと、いつも思っております。マイナスというのは、虐待や差別がある状況。それを0にしたいと思っております。そして、0を1にとというのは、学びたい、結婚したい、好きな猫と暮らしたい、そういう小さな願いを叶えていくことが大事と思っております。そのためにも、私自身、ここでは突っ張らずに、自分の顔で謙虚にしていきたいと思っています。サッカーが好きで、山登りが好きで、実家がコーヒー屋をしますのでコーヒーが好きです。よろしく願いいたします。

(議題3) 忠岡町障がい福祉計画(第7期) 令和6年度実績報告

福祉課堀井より、資料1「第7期障がい福祉計画 P D C Aサイクル管理用シート(忠岡町)」を用いて説明を行った。

質問及び意見交換の概要

(吉池会長) ここからご質問やご意見の時間に入りますが、いざこういう場で話をするとバリアを感じてしまうので、まず。それぞれのテーブルでお隣の方と2人1組で3分間程、感じられたこと、気になったことを話していただき、その後、全体に向けて意見の出し合いをしたいと思えます。

(テーブルでの話し合いの後)

(吉池会長) それぞれのテーブルで、ここがよくわからなかった、ちょっと気になったなどということがありましたら、ご質問いただければと思います。

(松浪委員) 岸和田支援学校の校長の松浪です。地域移行について、特に医療ケアが必要な方には丁寧にアプローチをしていくというお話を聞かせていただいたので、ぜひそのように進めてほしい。現場としては、生活移行だけでなく、昼間の日中活動をどうすればよいかという問題によく直面する。例えば、医療ケアが必要な方で、気管切開をしているが、立って動けて、作業もできる人で、活動の場として就労継続支援の利用や、チャンスがあるなら企業就職をしたいと思っても、看護師がつけられないから採用できない、というケースがある。消極的理由から「こっち側」しか選択肢がないのかと思うことがある。役場に相談にいても親身に相談にはのってくくださるが、町単独で全ての対応は難しいので、近隣の市や府と協力してニーズに応えていきますよということが計画に位置づけられれば嬉しい。ぜひ次の計画に反映してほしい。

(花野委員) 松浪委員のお話を聞いて、障がい者施策を前へ進めようとする、町単独では難しいと感じる。地域のつながりや、支え合う気持ちが前に出てこないといけなと感じる。社会福祉協議会として、そのことを更に町と力を合わせて進めていきたい。

(森田委員) 松浪委員のお話を聞いて思うことだが、当事者の親として、日々、子育てでいっぱいの中で、町の情報は、どこに行けば手に入れられるのか、と思っている。情報を早め早めにいただくと、この子の将来の道筋がこういうふうに着職につながるかもしれないというような、安心感を持って子育てに関わっていけると思う。

(吉池会長) 自立支援協議会の取り組みとも連動するところで、つながりを作っていくのが自立支援協議会なので、忠岡町と泉大津市との連携も大切に、前向きに計画に反映していただければと思う。それから、もしここで言い残したことがあれば、ぜひメモを置いて行っていただければと思う。吹田市の自立支援協議会では、ふせんを皆さんの机に置いていただく取り組みを行っている。

(議題4) 忠岡町障がい児福祉計画(第3期) 令和6年度実績報告

こども課米田より、資料2「第3期障がい児福祉計画PDCAサイクル管理用シート(忠岡町)」を用いて説明を行った。

質問及び意見交換の概要

(吉池会長) では、先ほどと同じように、それぞれのテーブルで3分程度意見交換をしていただければと思います。

(テーブルでの話し合いの後)

(森田委員) 町立こども園への訪問は回数ほどのくらいか。また、PT (理学療法士)、ST (言語聴覚士) は派遣しているが、OT (作業療法士) は派遣していないのか。全専門職がいれば、生活全般について相談できると思う。

(こども課米田) PTは月に1回、STは月に2回派遣している。OTの派遣がないのは、現在の町立こども園に通う対象の園児の状態や症状に合わせた保育士からの要望によるもの。今後対応広がることも想定しているが、現在は2種の専門職の派遣を行っている。

(吉池会長) それから、ご説明の中で、研修受講を希望したが定員がいっぱいで受講できなかったというお話があった。もったいない話だと思ったので、希望した人が受けられないってことがないようにしていただければと思う。

(芥川委員) 和泉支援学校校長の田川です。本校の小学部でも、ここ数年で児童数が急激に増加している。今後、入学希望者が増えるのかを予測するためにも、忠岡町のこども園の身体障がい児、知的障がい児の最近の状況を教えてほしい。

(こども課米田) 早期発見、早期療育を進め、児童発達支援のサービス受給者数は増加傾向にある。保護者も障がいについて学び、その子にあった教育機関を選んでいくという方向にあると感じている。こども園、保健センター、こども課の職員も、その子にあった学習環境等を推奨しており、そういった結果として、支援学校を選択されるご家庭は増えていくと考えている。本町は人口が限られているので、他市さんと比べて、急増するということは考えられないが、比率は増加の傾向をたどると予想している。

(議題5) 忠岡町第5次障がい者計画・第8期障がい福祉計画(第4期障がい児福祉計画含む)策定にかかるアンケート調査の内容の確認

福祉課堀井、こども課米田より、資料3「第5次障がい者計画・第8期障がい福祉計画アンケート案」、資料4「第4期障がい児福祉計画アンケート案」を用いて説明を行った。x

質問及び意見交換の概要

(吉池会長) では、このアンケートについても、それぞれのテーブルで3分程度意見交換をしていただければと思います。

(小宮山委員) 資料4 2ページ目 問4の「手帳を持っているか」という質問について、持っていないならどうしたらいいか、すぐ交付してもらえるかなどを、書いておく「優しい」のではと思う。

(吉池会長) 貴重なご意見ありがとうございます。今のは、「ご質問」というより「ご意見」ということでよろしいですかね。

(吉池会長) 皆さんご質問やご意見いただければと思います。後で石原委員、森田委員はち

よっと実際にアンケートを書く立場でどう感じられたかって伺いたいと思いますが、先に、私いいですか？ 回答欄の「その他」の欄が小さく、書きづらいと思いますので、紙面に余裕があれば、大きく記入スペースを取ってほしいと思います。

(中井委員) アンケート案を見させていただいて、感じた、想定する障がい、身体と知的がメインのように思う。視覚、聴覚障がい者にはどんな支援があるか、どんな支援を使っているか、という問いがあった方がいいと思う。

(吉池会長) 貴重なご意見ありがとうございます。職員の方に、後で、全体でのご発言が終わられてからコメントいただければと思います。聴覚の方などの側に立った項目もという貴重なご意見でした。他はよろしいですか。では、石原委員にマイクをお願いします。ご自身がアンケートをするお立場で感じられることをお願いいたします。

(石原委員) 施設に入ったら、動きたくても、寝ていなさいと言われる。私はしっかりと自分の意思を伝え帰宅したが、施設に入ったら、本人の意思をしっかりと確認せずに、どんどん周りが勝手に決めていく。本人の意思を聞いてもらえない。例えば、電動車イスも使いたいと申し出ても、施設側の都合で手押しの車いすしか利用できないとして、使用させてもらえなかった。

(吉池会長) 貴重なご意見ありがとうございます。施設に入ったときに、なかなか自分の意見が聞いてもらえなかったり、確認してもらえなかったり、大事にしてもらえなかったりすることがあるということですね。

(石原委員) ちょっとずつ改善していかないといけないと思う。

(吉池会長) ありがとうございます。ものすごく大事な意見だと思います。私自身、毎週、ある施設へ「アドボケイト」(意見表明支援)のための訪問をしていますが、言うに言えないことを言ってくれたりすることがあります。そのような「自身の想いを聞いてもらえているか」という質問の追加はいいと思います。資料3 9ページ目 問 22-1の回答選択肢の1つにも「本人や家族の意向を尊重してもらえない」がありますが、質問を追加する際には、本人と家族の意見を分けるといいのではと思います。障害者権利条約の対日審査での意見にもありましたが、入所されている方の意見もきちんと聞かれることは大事だと思います。

(森田委員) 先ほど、会長もおっしゃっていただいたように、やはり「その他」の枠が小さいと思う。学習障害で漢字が書けない場合、平仮名で記入すると、枠に収まらず書き切れないんだったらもういいや、書かんとこっかみみたいな感じになってしまうところもある。それから、資料4 7ページ目 問 15「発達に不安を持つ子どもが暮らしやすくなるために特に重要に思うことは」の回答選択肢に「8. 小・中学校、高校での教育機会の拡充」、「9. 支援学校の設備・教育の内容の充実」とあるが、地域の小学校が充実すればそこへ行きたいと思って

いる保護者もいると思うので、そういったニーズをくみ取れる項目があれば。
(吉池会長) 例えば、資料4 7ページ目 問15 選択肢8は、「共に学ぶ」などと文言を追加する必要性を感じなかったでしょうか。

(森田委員) このアンケートで、どこまで障がい児の保護者としての希望を伝えていいものか、と悩む。例えば、高校という文言も入っているが、町に高校はないので、高校について要望を伝えてもいいものかと思う。就学前児童の保護者は、高校まではイメージをしにくいとも思う。また、アンケートの文言がかたいとも思う。

(吉池会長) 作業の対応リミットがあるでしょうが、事務局で、可能な範囲で対応をお願いします。

(福祉課堀井) ご質問に対し、順に回答を。手帳の取得については、すぐ取得できるかは診断書などの書類の状況によるが、手帳取得後にどんなことができるかや取得前でも困ったことがあれば、電話をいただければ相談はできるので、まずはご連絡いただきたい。お近くとかで困っている方がいらっしゃったら、一回、役所でたずねていただけたらと思う。それから、聴覚、視覚障がい者向けの設問という件については、アンケートの特性上、幅広く聞かないといけないということもあって、視覚・聴覚の方に必要な質問項目が入れられていないかもしれないので、見直しをさせていただいて、視覚・聴覚の方々がもしこのアンケートに回答するとしたらという観点で、可能な範囲で配慮させていただく。それから、施設入所時の意思確認については、そもそもご本人が性格的に言えない場合、施設側がこれぐらいまでしか対応できませんという場合などがあると思うので、こういったパターンで意見を尊重してもらえないのか広くとらえられる質問を検討させていただければと思う。関連して、資料3 10ページ目 問25の「今後の相談支援体制について、どのようなことを希望するか」の質問も含め、より要望を拾えるよう工夫していきたい。「その他」欄についても、可能な限り大きくする。

(吉池会長) 善処していただけるようで、安心しました。当事者や支援者の意見表明権は大事であるため、引き続きご対応をお願いします。

(議題6) 各種計画策定のスケジュール説明

ぎょうせい今中より、資料5「各種計画策定のスケジュール表」、資料その他「障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る基本指針の見直し」を用いて説明を行った。

質問及び意見交換の概要

(小宮山委員) 今回は障がい者および障がい児についてのアンケートだが、妊娠中に胎児にダウン症候群などの障がいがある可能性があるかと健診時に言われた場合、悩む

方もいると思う。計画やアンケートには、そういうことは書いているのか。

(ぎょうせい今中) 自治体として、そういう方に何か支援をしていくという必要があれば計画に載せるわけだが、今のお話は医療倫理的なもので、個人さんと医療の世界でご判断される。そういう場面で何か経済的な支援であったり、相談支援であったり、そういうものが必要になってくれば、している。しかし、それを施策として計画で何かやっていくかという段階には至っていないと思っている。

(健康づくり課泉) 計画書に直接的に記載はないが、母子保健事業として、妊娠中の支援は従来から対応している。保健師が、妊娠された方に日頃よりフォローはさせていただいている。令和7年4月より「妊婦のための支援給付」ということで、給付金の支給も実施している。墮胎される理由は様々あり、医療面になると保健センターでも把握しきれない部分はあるが、妊婦さんから生まれた子どもさんへの切れ目のない支援ということで、町として取り組んでいる。

(吉池会長) この点については、啓発がとても重要と思います。以前、大阪市内でダウン症や自閉症など人たちが自分は今こんなに豊かな生活を送っているんだというパネル展をされていて、ぜひその、自分たちの命を守ってほしいというふうなこともされていたことを思い出します。大事な課題があると思いますので、引き続き町の方でもご検討いただければと思います。

(議題7) その他

福祉課堀井より、今年度の本協議会開催は本日のみであること、次年度は8月、10月、12月、2月の4回、協議会を開催予定であることの説明を行った。

次回スケジュールについて

福祉課堀井より、第2回協議会は令和8年8月開催予定であり、日が近づいたら追って日程を案内する旨をお伝えした。

以上